

農山漁村地域整備計画 事後評価調書

計画の概要	計画の名称	岐阜県農山漁村地域農業農村整備計画(草地畜産基盤整備分野(郡上地域))
	計画策定主体	岐阜県
	対象市町村	郡上市
	計画期間	平成31(2019)年度～令和6年度(2024)年度(6年間)
	計画の目標に対する成果	<p>中山間地域の遊休農地を有効活用し公共牧場の再整備や担い手による自給飼料増産と乳用牛・肉用牛の増頭を図り、酪農及び飛騨牛の主産地として継続的な発展を図るとともに、中山間地域の産業を創出し地域経済の活性化を推進した。</p> <p>① 自給飼料増産を図るため、地域の基幹的な公共牧場を再整備した。</p> <p>② 遊休農地を活用し飼料生産基盤の造成整備を実施することで自給飼料の増産と乳用牛・肉用牛が増頭された。</p> <p>③ 家畜保護施設整備等を行い酪農及び飛騨牛の生産をする若い担い手、新規就農者を育成し、定着している。</p> <p>④ 飼養規模拡大に伴い増加する家畜排せつ物を適正に処理し土地還元することにより資源循環型農業の確立を図るため、排せつ物処理施設を整備した。</p>
	定量的指標の成果	<p>① 岐阜県郡上地域における酪農、飛騨牛の主産地を形成するため、郡上市の肉用牛、乳牛飼養農家6戸に係る意向調査を3回程度行い、事業実施計画1地区を作成する。</p> <p>1地区作成</p> <p>② 公共牧場を再整備し、預託放牧可能頭数を84頭→95頭とする。 目標達成のため草地整備改良を実施した結果、牧草の単収は 目標2,090kg/10a 実績2,155kg/10a(R5,R7坪刈り平均)と目標を上回り、95頭の預託放牧が可能となった。</p> <p>③ 草地造成整備による自給飼料増産により、乳用牛、肉用牛の飼養頭数を516頭→825頭とする。 516頭→709頭(R7/12時点) 5カ年(令和11年度)迄に309頭を増頭する計画のうち、193頭を増頭済み。 八幡第1工区が計画的に増頭中で、聞き取りの結果令和8年度末には825頭を達成する見込み。</p> <p>④ 家畜保護施設等を整備し就農環境を整えることにより新規就農者1名を育成する。 八幡第1工区に新規就農者1名</p> <p>⑤ 家畜排せつ物の適正な処理、土地還元のため、家畜排せつ物処理施設4棟を整備する。 処理施設を4棟整備し、排泄物を良質な堆肥として土地還元している。</p>
対象事業	草地畜産基盤整備事業(畜産担い手総合整備型)	
全体事業費 上段:計画 下段:実績	(836,885千円) 835,741千円	

項目	評価項目	評価	評価根拠
評価	交付対象事業の進捗状況	○	いずれの工種においても計画通りに整備が完了した。
	事業効果の発現状況	○	草地造成・整備改良により自給飼料生産が拡大したことにより、公共牧場の放牧可能頭数、畜産農家の飼養頭数が増加した。畜舎整備により肉用牛経営において新規に1名が就農した。 家畜排せつ物処理施設 の整備により排泄物が適正に処理され、堆肥として土地還元されている。 事業実施により着実に事業効果は発現されている。
	成果目標の目標値の実現状況	○	いずれの指標においても、概ね目標値を達成できている。
	今後の方針		いずれの工種においても概ね想定した通りの事業効果が発現しており、今後の継続的な事業効果発現のため、畜産振興を図っていく。